

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立広戸小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>「夢」、「愛」、「学び」を拓く広戸っ子の育成                  -元気・やる気・本気・根気-                  みんなが輝く広戸っ子</p> <p>めざす子ども像                  にこにこ挨拶 思いやりのある子ども ことこつ学習 進んで学ぶ子ども                  いきいき生活 たくましい子ども わくわく体験 よく働く子ども</p>	<p>(1)心の教育の充実と人間理解の深化                  (2)基礎基本の習熟と学ぶ力の育成                  (3)健康づくりと安全教育の推進                  (4)ふるさと体験と実践力の育成</p>

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国(小学校) 国語A Bともに県平均より正答率が低い。                  国語A 漢字の読みは県より正答率が上回っている。(「街灯」本校91.7%, 県84.6%)                  国語B 付箋に書かれた内容を関係付けて書くことについて低い。「読むこと」「書くこと」に課題がある。(本校41.7%, 県70.6%)                  算数A Bともに県平均より正答率が低い。                  算数A 四則計算は県平均と比べるとほとんどの問題で正答率が高かった。(「9-0.8」本校100%, 県84.4%)                  算数B 最大値に着目して、棒グラフの棒の枠の中に表すことができない理由を記述する問題については、県より低い。                  数量関係に課題がある。(本校33.3%, 県69.4%)</p> <p>県(中学校) 国語は県平均と同程度の正答率だったが、社会と数学は下回った。理科は県平均を上回った。                  文法・語句は県に比べてかなり高い。                  必要な情報を整理して読み取り、書く力が低い。                  社会では歴史や文化に関する分野の力がかなり高い。                  政治や地理や産業に関する分野が低い。                  四則計算・図形の力が高い。                  数学では、知識・理解面や数学的な考え方の力が低い。                  理科は、全体的に県平均より高いが、「天気の様子と気温」が低い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>自尊感情は高いが、自分の長所を見つけれられていない児童が県より多い。                  国語や算数への関心は高い。                  家庭での学習時間の割合(1時間以上)の割合が平日・土・日とも県平均に比べて低い。                  全く家庭学習しない割合は県平均より少ない。                  家庭で自分で計画を立てて学習している割合は県平均より低い。                  テレビ等を2時間以上視聴している時間の割合は、県平均よりも高い。                  宿題以外に予習・復習をしている児童は県平均より低い。                  家で読書している時間は県平均より少ない。                  地域行事に参加している児童は県より多い。県平均よりかなり高い。                  友達に伝えたいことをうまく伝えることができる。県平均よりかなり高い。                  あいさつの意識は高い。                  学校は楽しいと感じている児童は県平均よりかなり高い。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>本校独自の「かがやきプラン」の成果もあり、漢字の読みはできるが、書くことが苦手な児童もいる。                  国語では、文章の読み取り方が苦手である。また、自分の考えを資料をもとに制限字数内で記述することが弱い。                  文法を活用することに慣れていない。                  「かがやきプラン」の成果もあり、算数では四則計算はできるが、図形・数量関係の知識・理解が苦手な児童が多く、特に割合など数学的に考えて、説明を記述する力が弱い。                  社会科では政治や地理・産業に関する学習の復習を入れていかなければならない。                  理科は、昨年度の学習の効果が出ているが、引き続き、実験の条件を考えたり、実験の結果や資料などをもとにして考えたりすることをを入れていく必要がある。                  家庭学習の時間が県に比べ短く、あまり予習・復習ができていない児童がいる。</p>	<p>&lt;すぐに取り組む内容&gt;                  授業改善...国語授業の中での読み取りの時間を確保し、書く活動を多く取り入れる。                  基礎基本の徹底...国語、算数特に漢字に重点を置く。朝学習や授業の始めにミニテストをする。                  放課後学習で補充・発展問題に取り組む。                  基礎基本の定着のために「かがやきプラン」を計画的に実施していく。</p> <p>&lt;中・長期的に取り組む内容&gt;                  自分の考えをまとめたり、表出する力をつけたりするために、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を授業に位置づける。                  学習規律をさらに定着させるとともに、授業を充実していく。                  読書量を増やす。                  家庭学習の手引きを配布し、家庭学習の定着に向けて保護者をお願いする。                  勝北中学校ブロックでノーメディアの取り組みを実施し、家族とのふれあいや家庭学習の時間を増やすことをお願いする。</p>

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
<p>児童授業アンケートの実施。(学期ごと)                  生活アンケートの実施。(学期ごと)                  学習状況たしかめテストの活用。(11月)                  到達度確認テストの活用。(年度末)                  かがやきプランの取り組みの反省と改善。(2月)</p>	<p>県平均正答率以下の設問が県平均までできるようにする。                  1時間の中で、全員何かの形で発表できるようにする。                  すべての児童が意見を持ち、理由付けて数字や言葉で表現できるようにする。                  各学年に見合った家庭学習の時間を80パーセント以上の児童ができるようにする。                  中・高学年で予習復習を考えた自主的な学習ができる児童の割合を60%以上にする。</p>